

## 特色

救急科は平成12年11月開設されました。救急医療を充実させる目的で専従医2名が赴任してスタートしております。現在専従1名の体制で診療を行っています。この1名は日本救急医学会認定専門医資格を有しております。当院の救急外来はER形式をとっており、初期対応の後各専門医へ引き継いでいます。平日日勤帯の救急対応はこの1名が主に行っています。夜間休日は一般当直(内科系・外科系各1名)に加えてICU当直、NICU当直、産科宅直の合計4~5人体制で救急患者に対応しています。具体的には、通常中等症までの患者さんは最初に一般当直医が診察します。産科婦人科疾患に関しては産科宅直医に相談して対応します。小児科患者についてはNICU当直医師、重症・重篤患者についてはICU当直医師が適宜対応しております。

当院は救命センターではなく病院群輪番制に対応した2次病院ですが、心停止患者を含めた重症・重篤患者への対応も可能な体制をとっています。医師や看護師だけでなく、臨床検査技師や放射線技師、臨床工学技士といった他の職種も24時間対応します。具体的には、心停止患者に対しては、場合によっては脳低体温療法やPCPSも施行しております。ACSや重症心不全に対してはPCIに加えてIABPやPCPSを併用し、患者の救命につとめています。重症中毒や腎不全、敗血症患者にはHDのみならず、CHDFやDHP、PMX、PE等の血液浄化

療法を駆使し治療を行っています。Strokeが疑われると、院内に専門医は不在の時でも画像転送システムを使い院外の脳神経外科医が画像を判読し、素早い処置を目指しています。重症呼吸不全で人工呼吸が必要な場合も、気管挿管下の呼吸管理だけでなく、挿管せずに陽圧管理を行うNPPVも積極的に活用しています。新しくなった救急外来には麻酔器に加え無影灯も常設しました。あまりに重篤で手術までの移動に耐えられない場合は、救急外来での手術も可能となっています。また、日本集中治療医学会専門医施設にも認定されており、重症患者さんの場合救急外来からスムーズに集中治療へ引き継ぐことが可能となっています。集中治療室では集中治療専門医による治療と平行して原疾患の治療についても各専門医のもとで集学的に行っています。

患者さんの急変に対応するために、平成14年より日本救急医学会認定のICLSコースを救急科が中心となって開催しています。これは心停止になった場合最初の10分間に何をすれば患者さんの利益になるかという目的に限定した心肺蘇生の講習会です。現在まで合計20回開催してきており、院内看護師も200名以上受講しています。当院看護師の急変時対応力はかなり高いものとなっています。

## 対象疾患

特に限定はしていません。しかし当院には常勤精神科医がいません。精神科的対応が必要と思われる場合、自傷

他害の恐れがあったり重篤な精神障害を患っていたりと通常の対応が困難な場合はお断りする場合があります。

## 診療実績

(2021年度当院救急外来受診者数 10,677名 (内 救急搬送患者数 4,038名)

主な救急搬送患者内訳

- 心肺停止
- 急性冠症候群(急性心筋梗塞・不安定狭心症)
- 脳卒中(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血)
- 消化管出血
- 多発外傷
- 急性薬物中毒
- 大血管緊急

## 地域の先生方へ

現在救急科は1名のため対応がなかなか追いつかない場合もあります。救急外来自体は平成26年に竣工した新しい中央診療棟1階で、初療室も今までの1名対応から2名対応へと拡充しました。また、一般診察室も3診から4診へと増えています。さらに、救

急外来には常時3名以上の看護師が配置されています。他科の医師や看護師等全職員で協力しながら、地域から信頼される体制を追い求めていきたいと考えています。



初療室



点滴・処置室

血液内	1
腫瘍内	2
腎臓内	3
内分泌	4
消化内	5
循環器	6
脳神内	7
呼吸内	8
感染症	9
精神	10
小児	11
小児外	12
消化外	13
胸乳外	14
脳神外	15
心臓外	16
整形外	17
リハ	18
皮膚	19
形成外	20
泌尿器	21
腎外	22
産婦人	23
眼科	24
耳鼻	25
化学療	26
放診断	27
	28
放核医	29
麻酔	30
歯科	31
救急	●
心不全	33
がんゲ	34
健診	35
病理	36
薬剤	37
検査	38
超音波	39
臨床工	40
看護	41
血管治療	42
消化器	43
呼吸器	44
生殖医療	45
腎臓病	46
ロボット	47
女性外来	48
緩和	49
下肢	50
呼吸ケア	51
NST	52
認知症	53
褥瘡	54
RRT	55
転倒予防	56
内科専	57
外科専	58